

古事類苑

植物部四

木三

〔新撰字鏡〕栗、栗、麌、三形作、力

質反、久利。

〔本草和名〕栗皮名扶、杣子、鷄栗相似而細小、已上二名出兼名苑、和名久利。

〔倭名類聚抄〕栗子 兼名苑云、栗力質一名撰子、和名久利。

〔箋注倭名類聚抄〕栗子、中子惟一二、將熟則鱗拆子出、陳士良食性本草云、栗有數種、其性

三丈、葉似櫟花青黃色似胡桃花、實大者如拳、小如桃李、又有板栗佳栗二樹皆大本草圖經云、實有

略中

按撰子之名未見所出、蜀本圖經云、栗樹高二

房彙若拳、中子三五、小者如桃李、中子惟一二、將熟則鱗拆子出、陳士良食性本草云、栗有數種、其性一類、三顆一穗、其中者栗核也、李時珍引事類合璧云、栗木苞生、多刺如蠅毛、每枝不下四五箇、苞有青黃赤三種、中子或單或雙、或三或四、其殼生黃熟紫、殼內有膜裹仁、九月霜降乃熟、其花作條、大如筋頭、長四五寸、中心扁子爲栗楔。

〔倭訓栢前編〕くり○中子 栗子を名くるは色の黒きをいふにや、又くりは稜角をいふ、よて三稜草をみくりと訓ず、石をいふも同意也、日向風土記には、俗謂栗爲區兒と見えたり、延喜式に搗栗子、扁栗子、燐栗子削栗子等の目あり、扁栗子は今の打栗なるべし、類聚雜要に搔栗あり、九月九日に栗をくふ事は熙朝樂事に見え、栗扶ぐりの玄ぶ、栗刺ぐりのいが、和名鈔に見えたり、扶は本草に薪に作る、玄ぶかは也、栗刺は本草に毛毬と見えたり、俗に杓子と稱するは栗楔也といへり、